

□ウィンド研修報告(つづき)

第三部では、日常生活の中で生まれた様々な表現やアール・ブリュット(アウトサイダーアート)作品を通していろんな「普通」を体感して頂くことに焦点を当てました。

講師は、福山市の社会福祉法人創樹会が運営するアール・ブリュット美術館「鞆の津ミュージアム」芸員の津口在五氏をお招きして、「Life-Specific な創作的表現を伝える～ 鞆の津ミュージアムの活動について～」というタイトルでお話し頂きました。津口先生からは、鞆の津ミュージアムではプロの芸術家でない人達(障がいのある人・独居高齢者・戦争体験者等々)の“生に根ざした独自の創作的表現”に重きを置き、作者に障がいがあるかないか、有名無名かは問わず作品を展示していると紹介されました。これは、障がい／健常や IN／OUT という二項対立構造を再生産するまなざしを相対化したものだそうです。このことは「カテゴライズの無化」すなわち差別のない、境界のないことが重要であるという意味だそうです。特に印象に残ったのは、表題にもなっている『Life-Specific(人生に根ざした)』な創作的な表現に宿る様々な幸福のかたちや「普通」です。見た目が「普通」であってもその人にはとても価値のあるということです。『当たり前が人によって違うこと』を再認識することは、福祉現場や一般社会にも通じるもので、普通や決まりきったものなど相手やモノに決めつけた基準を押し付けないこと、まさに私たちが目指している『道しるべ』を表す言葉ではないかと感じました。

▶リモート開催のため例年開催していました作品展示はできませんでしたが、『2019～2021作品集』を作成しました。作品を提供して頂いた方、保管されていたご家族や先生方、撮影編集して下さい皆様すべてに感謝いたします。
数に限りがありますが、ご希望の方は、ウィンドまでご連絡ください。

□島根県自閉症協会 地区部会

島根県自閉症協会さんの各地区の勉強会にウィンドのスタッフも参加しております。

初めて参加される方は、日程や場所が変更になる場合がありますので、事前にウィンドのスタッフまでお問い合わせ下さい。

| 地区 | 時間 | 場所 | 開催日 |
|-----|-------------|--------------------|----------------------------|
| 大田 | 10:00～12:00 | 仁万まちづくりセンター | R4.2/2(水)、3/2(水) |
| 邑智 | 14:00～16:00 | 元気館 | R4.3/14(月) |
| 江津 | 9:30～11:30 | 嘉久志コミュニティーセンター | R4.1/20(木)、2/17(木)、3/17(木) |
| 浜田 | 13:00～14:30 | いわみーる2F会議室1 | R4.1/17(月)、2/21(月)、3/28(月) |
| 益田 | 10:00～12:00 | ウィンド益田相談室 | R4.1/27(木)、2/24(木)、3/24(木) |
| 吉賀 | 10:30～12:00 | よしかの里 | R4.2/25(金) |
| 津和野 | 10:30～12:00 | 津和野町障害者福祉センターはなみずき | R4.3/25(金) |



風。



発行元

「島根県西部発達障害者支援センターウインド」
〒697-0005 島根県浜田市上府町イ2589
TEL:0855-28-0208 FAX:0855-28-0217
E-mail wind1841@rhythm.ocn.ne.jp
URL <http://iwami-wind.org/>

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

コロナウイルスの第6波が心配される中ではありますが、ウインド職員一同、個々のニーズに向き合いながら、コロナウイルス感染対策はもちろん、できることを丁寧に取り組んでいきたいと思ひます。

□ウインド医療相談

*専門の医師をお招きして医療相談を実施しています。診断・投薬はできませんが、医療に関わる心配事など気軽に相談できます。【お一人あたり1時間の予約制】

*事前にスタッフが相談内容をお聞きし、当日も同席させていただき、その後の支援に繋げていきます。

| 日時 | 場所 | 担当医 |
|-------------------------|------|-----------------------|
| R4年1月13日(木) 13:00~16:00 | ウインド | 西部島根医療福祉センター 大野 貴子 先生 |
| 3月9日(水) 13:30~16:30 | ウインド | 美都診療所 安藤 幸典 先生 |

※1月の医療相談につきましては、予約がいっぱいになりました。ご了承下さい。

※医療相談の利用は、ウインドホームページ(医療相談)をご確認ください。(空き状況の確認もできます。)

□ゆるやかなステップによる支援事業

グループごとに開催をしています。当事者同士が交流することで自己理解や他者理解の場となり、お互いの成長につながる機会になればと思っています。当事者の声を直接聞くことによって、支援者自身の支援を振り返る機会にもなっています。感染対策を取りながら、開催をしております。ご興味のある方は、ウインドまでお問い合わせください。

| | 対象 | 日時 | 場所 |
|-----------------------|----------------------------|------------------------------|-------------|
| スマイルクラブ | ウインドに相談登録されている 15歳以上の男女 | R4年1月30日(日) 13時00分~14時45分 | いわみーる402研修室 |
| からふる&ナチュカフェ 【合同開催】 | からふる又はナチュカフェに 登録されている方 | R4年2月26日(土) 13時30分~15時00分 | こくぶ学園会議室 |

※参加を希望される方は、別途登録が必要です。本人、家族、支援者の見学可能です。



□ 発達障がいについてQ&A

発達障がいの特性や支援に関する質問を当事者、保護者、支援者の方に回答していただくコーナーです。少しでも発達障がいの理解や支援のきっかけになればと思います。

今回は、当事者の方に、“こんなサポートをしてもらって良かったこと”を質問してみました。ご協力いただいた当事者の皆様、ありがとうございました。

Q. 学校へ通っている時に先生や家族などに理解してもらったり、サポートしてもらって良かったと思うことはどんなことですか？

【20代:Cさん】

中学校の時、同級生と一緒に行動することが苦手でした。部活も遊びも孤立気味でしたが、先生方が一緒に何でもできる文化部を立ち上げてピアノをひいたり、ランニングしたり、交代で一緒に活動してくださいました。おかげで、学校生活を送れました。同級生とも少しずつ仲良くなれました。

【20代:Dさん】

社会の勉強が苦手ですぐに上の空になってしまうので、先生に私が当時ハマっていたアニメのキャラクター達が会話しているプリントを作ってもらったことがあります。



【30代:Bさん】

自分の胸の内を聴いてもらったこと。



【30代:Aさん】

成人してから、障がいの診断が出たので、学生時代は理解されたり、サポートしてもらったりという経験は、ほとんどありません。いつも1人で悩んでばかりでした。

Q. 大人になってから、職場の人や家族、支援者などに理解してもらったり、サポートしてもらって、良かったと思うことはどんなことですか？

【30代:Dさん】

頭痛等による体調不良の規則性を視覚化(季節・天気・温度等)してもらって、ストレスが一番良くないことがわかって、ストレスの元に近づかない、関わらないようにしてから生活が以前より安定したように思います。



【30代:Aさん】

例えば、口頭での指示を聞きとるのが苦手で、指示を紙に書いてもらえた時は嬉しかったです。支援者の人に自分の特性を話して理解してもらったことは安心につながりました。

【30代:Bさん】

話を聞いてもらったり、意思疎通がとれるようになったりした。

【20代:Cさん】

できない部分ではなく、できる部分を重視して、活動できるようになりました。困っていてもだれにでも相談できるようになりました。相談できる人が増えました。



□ウィンド研修報告



①『保育士・幼稚園教諭専門研修』

10月16日(土)に、西部島根医療福祉センターより、関友紀子氏(作業療法士)と吉永美紀子氏(言語聴覚士)を講師にお招きしました。「乳幼児に対する遊びを通じた関わり方～OT・STの視点から～」と題して、オンラインでの開催でしたが、約30名の方にご参加いただいています。

OTの視点からは、感覚の種類やその役割、発達障がい子どもさんに多く見られる感覚の受け取り方の偏りについて説明があり、見えている行動や好き・嫌い(得意・不得意)の背景に感覚の過敏さや組み立ての難しさがいないか…と考えることの大切さをお話いただきました。

Point ▶無理強いをせず子どもにとっての安全を保障すること。子ども自身が興味をもち、能動的に様々なことに取り組み、触れていこうとする姿を引き出せるような関わりを。

STの視点からは、言葉の発達、構音の発達について、また、それらの発達を促す遊びについてのお話でした。様々な楽しい体験、楽しいと思える人との関係性から言葉が発達していくということ、大人が楽しいと感じながら子どもたちと関わるのが欠かせないということをあらためて確認できるお話でした。

Point ▶楽しい体験をたくさんしよう～他者とたくさん楽しい経験をするのが言葉を育む。集団での活動や遊びすべてが、発達を促す経験になる。

②『発達障がい地域啓発セミナー』

11月13日(土)、全3部構成(オンライン研修)の開催、53名の方にご参加いただきました。

第1部ではペアレントメンター島根の皆様によるキャラバン隊公演①ペアレントメンターとは②発達障がいについて③疑似体験④子育てエピソードについてのお話でした。疑似体験と子育てエピソードでは島根県自閉症協会江津支部の皆様のご全面的な協力により、親御さん自身の取り組みやその時の感情を交えて、効果的な支援など伝えて頂きました。

自閉症協会江津支部では、発達障がい啓発活動の一環として、『発達あるある万年カレンダー』や『はみがきカード』などの支援グッズを作成されております。
ご興味のある方は是非「はらぺこ会」のブログをご覧ください。

第2部では、ASD+ADHD当事者である「fukuhanko(福はんこ)」さんより「私の凸凹(デコボコ)奮闘記」～発達障害と歩んだ50年～と題して、ご自身の半生を振り返られたお話でした。現在は、障がい者雇用で働く傍ら、消しゴムはんこの創作に情熱をささげておられます。幼少期から発達特性に気付いていたにもかかわらず、当時は発達障がい社会に認知されておらず、困り感を抱えたまま、中学高校と進み、社会人になって初めて社会での生きづらさを実感されたそうです。さらに、46歳になってやっと障がい認知の方向へ向かわれ、仕事が出来なかった理由が「努力不足ではなかった」と判明しても“社会のハードル=壁は厚かった”とのこと。障がい者雇用で働くことを「ライスワーク」、絵を描いたり消しゴムはんこを作ることを「ライフワーク」と表現され、「やりたいこと」を人生の中心にしたいと希望を述べておられました。今後は、創作と支援(後進の指導)に力を注ぎたいと夢を語っておられました。

特に印象的だったのが、『絵は趣味にしとけ』と言う先生の何気ない言葉、俵万智さんの『何気ない一言で子供の可能性を摘み取る大人になりたくない』でした。このことは、発達障がいの方だけでなく、万人に共通する課題だと思いました。その人の価値観や才能に関して、私たち支援者や家族など取り巻く人々の何気ない一言が、将来へ大きな影響を与えてしまうことを肝に銘じて関わっていく必要を再認識させられました。

